



目 次

| | |
|---------------------------------|---|
| 電子ジャーナルの今と展望(1) (加藤信哉) | 1 |
|---------------------------------|---|

電子ジャーナルの今と展望(1)

加 藤 信 哉

ここ数年の電子ジャーナルの名古屋大学における導入と普及は目覚ましいものがある。本学では、学術雑誌の価格の高騰による基本雑誌の購読中止を余儀なくされてきたが、電子ジャーナルの導入によって研究の基盤である学術雑誌のタイトル数の増加が実現した。また、電子ジャーナルをめぐる国内外の動きも活発である。今号と次号の2回にわたって電子ジャーナルの今と展望について、名古屋大学の現状、平成14(2002)年の導入予定、未導入の電子ジャーナル、冊子体との違い、問題点(以上今号)、出版の動向と国内・国際的な取り組み、名古屋大学における今後の電子ジャーナル整備の課題(次号)についてご紹介したい。

1 名古屋大学の現状

(1) 利用できる電子ジャーナル

名古屋大学では、2000年の ScienceDirect(Elsevier), EBSCOhost Academic Search Elite(ASE), FirstSearch ECO の導入を契機に電子ジャーナルの整備が急速に進み、平成13年11月12日現在で約4,792タイトルが利用できるになっている。この数は全国でも有数である。

導入電子ジャーナルの言語別の内訳は外国語が4,659タイトル、日本語が133タイトルであり、97%が外国語(ほとんど英語)のタイトルである(図1)。導入形態の内訳は、契約しているものが72%、プリント版雑誌の購読により学内からの利用が可能になっているものが18%、無料で使えるものが10%である(図2)。契約している主要な電子ジャーナルサービスは表1のとおりである。

図1 名古屋大学で利用できる電子ジャーナル: 言語

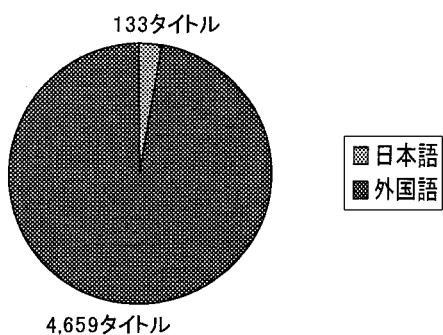


図2 名古屋大学で利用できる電子ジャーナル: 導入の種類

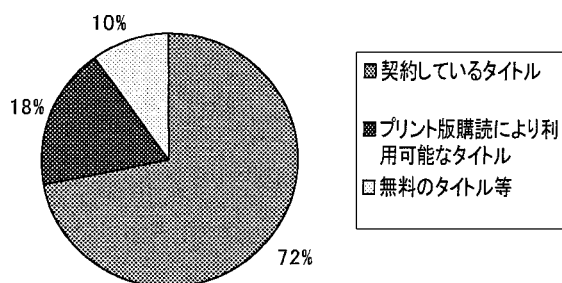


図3 名古屋大学で利用できる電子ジャーナル: 主題分野

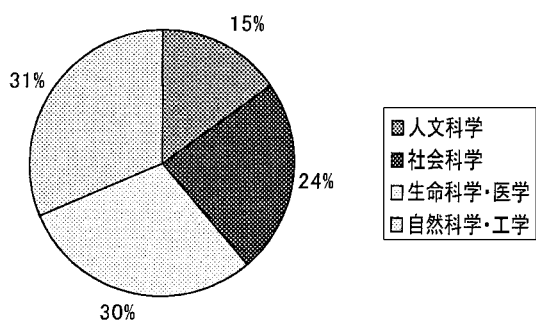


図4 電子ジャーナルの利用状況

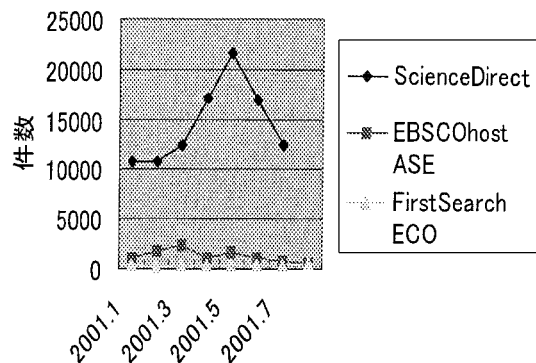


図5 ScienceDirect利用状況: プリント版購読誌・非購読誌
全文表示件数推移

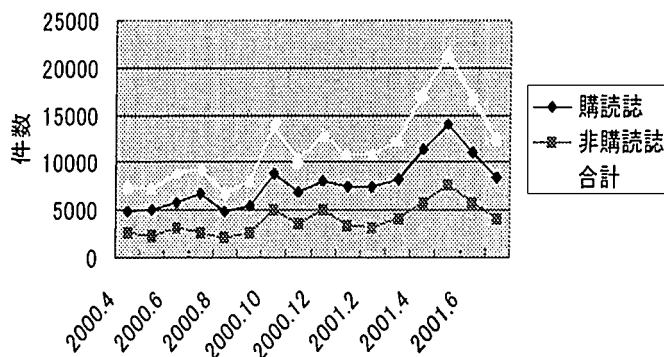


表1 名古屋大学で現在契約している主要な電子ジャーナルサービス

| サービス名 / 出版社・アグリゲータ | 契約タイトル数 | 経費負担 |
|--------------------------|---------|-------|
| ScienceDirect / Elsevier | 1,200 | 中央図書館 |
| EBSCOhost ASE | 1,486 | 中央図書館 |
| FirstSearch ECO / OCLC | 173 | 中央図書館 |
| Highwire Press | 15 | 部局 |
| ACS | 12 | 部局 |
| IEEE | 107 | 部局 |
| 計 | 2,993 | |

主題分野別の内訳は、人文科学が15%、社会科学が24%、生命科学・医学が30%、自然科学・工学が31%であり、科学・技術・医学（STM）分野が61%を占めている。これはプリント版の雑誌の出版傾向と同じであるが、人文社会科学系も40%と増えている（図3）。

（2）電子ジャーナルの利用状況

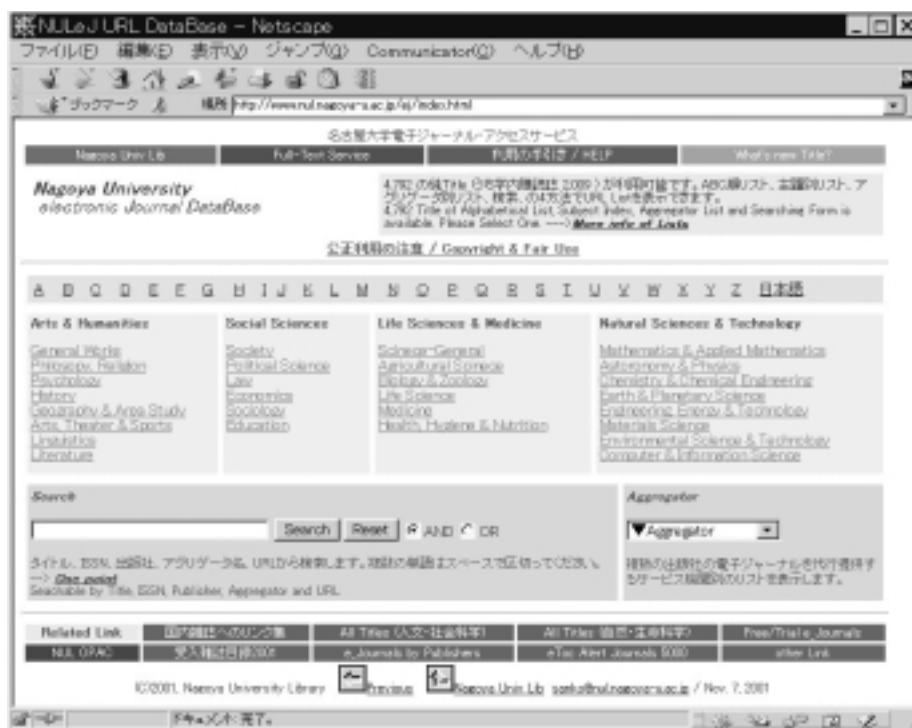
電子ジャーナルは大変活発に利用されている。契約している主要な電子ジャーナルサービスである ScienceDirect、EBSCOhost ASE 及び FirstSearch ECOの2001年4月から7月までの利用統計は図4のとおりである。ScienceDirect（1,200タイトル）の利用が最も多く、1月平均の論文の全文表示件数が約14,600件ある。これに対して1月平均でEBSCOhost ASE(1,486タイトル)は約1050件、FirstSearch ECO（173タイトル）は約380件の利用がある。これらの利用件数は、EBSCOhost ASE はタイトル数が多いが最新号のデータが提供されるまで数ヶ月以上かかるものがあること、FirstSearch ECO は提供タイトル数が少ないことを反映していると思われる。

代表的な電子ジャーナルサービスである ScienceDirect の利用の推移を2000年4月から2001年7月まで見ると、利用は2000年4月に比べて約2.9倍（2001年5月）に伸びている。また、冊子体を購読している雑誌（プリント版購読誌）と冊子体を購読していない雑誌（プリント版非購読誌）の利用比率は約2対1であり、プリント版非購読誌もよく使われていることがわかる（図5）。

（3）電子ジャーナル・アクセスサービス

附属図書館では、ホームページに学内で利用できる電子ジャーナルリスト（リンク集）を作成し、電子ジャーナルの利用に対応してきたが、電子ジャーナルの数が急激に増えたため、学内で利用できる電子ジャーナルを一元的かつ総合的に紹介をすることを目的とした「名古屋大学電子ジャーナル・アクセスサービス」を2001年6月から公開した。（<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/ej/>）。このサービスは、電子ジャーナルのタイトルリスト、分野別リスト、アグリゲータ（複数の出版社の電子ジャーナルを代行提供するサービス機関）別リストの他にタイトル、出版社等からの検索機能を提供している（図6）。このホームページの維持管理は、各部局の雑誌業務担当者及び中央図書館の雑誌掛、参考調査掛、システム管理掛から構成される「プリント版購入電子ジャーナルのアクセスに関する担当者会議」（略称：EJ連絡会）で行われ、2週間に一度、ホームページの更新を行っている。

図6 電子ジャーナルアクセス・サービス ホームページ



2 平成14 (2002) 年の導入予定

一昨年度から電子ジャーナルサービスである Science Direct, EBSCOhost ASE 及び First Search ECO の試行を行い, その有用性を電子ジャーナル説明会を定期的を開催することにより説明してきたが, 大学の多大な理解と支援により, 平成13年度に附属図書館に対して電子ジャーナル導入経費1,527万円の配分がなされた。これに基づいて平成14 (2002) 年に次のような電子ジャーナルサービスを導入すべく準備を進めている (表2)。

表2 平成14(2002)年導入予定の電子ジャーナルサービス

| サービス名 / 出版社・アグリゲータ | 導入予定タイトル数 | プリント版購読誌 | プリント版非購読誌 |
|----------------------------|-----------|----------|-----------|
| ★Science Direct / Elsevier | 1,200 | 406 | 794 |
| ★EBSCOhost ASE | 1,486 | 850 | 636 |
| ★FirstSearch ECO / OCLC | 173 | 173 | — |
| ▲Wiley InterScience EAL | 330 | 81 | 249 |
| IDEAL / Academic Press | 296 | 174 | 122 |
| Synergy / Blackwell | 534 | 195 | 339 |
| ▲Springer-LINK | 485 | 140 | 345 |
| Cambridge University Press | 142 | 63 | 79 |
| Kluwer | 130 | 130 | 0 |
| JSTOR | 233 | 180 | 53 |
| 計 | 5,009 | 2,392 | 2,617 |

★:導入済みのもの ▲:2001年12月までトライアル中のもの

表2のうち, WileyInterScience EAL, IDEAL, Synergy, Springer-LINK, Cambridge University Press は ScienceDirect と同様に各出版社の全電子ジャーナルを提供するサービスであり, Kluwer はプリント版

購読誌の全タイトルを提供するサービスである。また、JSTOR (Journal STORage) は自然科学・人文科学・社会科学の分野の主要なジャーナルのバックナンバーを創刊号から提供するサービスである。これらの導入によって平成14 (2002) 年から新たに2,150タイトル (プリント版非購読雑誌1,187タイトルを含む) の電子ジャーナルの利用ができるようになり、合計では5,009タイトルの電子ジャーナルが利用できることになる。

3 未導入の電子ジャーナル

電子ジャーナル導入経費の手当により2002年から利用できる電子ジャーナルのタイトルはかなり増えるが、2002年に購読するプリント版外国雑誌4,513タイトルの47%についてはまだ電子ジャーナルが利用できない状況である。次の有力な電子ジャーナルサービスは本学では導入されていない (表3)。

表3 未導入の有力な電子ジャーナルサービス

| タイトル | タイトル数 | 内容 |
|---------------------|-------|--------------------------|
| Project MUSE | 135 | 人文科学分野 (複数のアメリカの大学出版会刊行) |
| MCB Press | 150 | 社会科学分野 |
| Thieme | 31 | 医学分野 |
| ACM Digital Library | 22 | コンピュータ科学 |

これらの他に部局予算で購読されている American Chemical Society, American Physical Society, American Institute of Physics, Institute of Physics, Royal Society of Chemistry 等の電子ジャーナルサービスがある。欧米の多くの大学では、これらの電子ジャーナルは欧米の図書館コンソーシアム (図書・雑誌の共同利用や購入、経費の削減を意図した図書館の連合組織) によって提供されている。

4 冊子体と何が変わったのか

(1) 電子ジャーナルのメリット

電子ジャーナルの最大のメリットはいつでも (24時間)、どこでも (学内) 利用できることである。また、プリント版の雑誌よりも早く論文を見ることができ、出版社によっては発行前の論文を見ることができる。電子ジャーナルはデータベースであり、電子ジャーナル自体の全文検索ができるし、リンクしている二次情報データベースの横断検索 (例えば ScienceDirect における MEDLINE) もできる。電子ジャーナルの引用文献からの当該の電子ジャーナル掲載論文を直接利用できる。業務面では、プリント版の雑誌の取扱いがなくなるので雑誌の受付、配架、製本等の業務の省力化を図ることができる。

(2) 研究室・部局単位から大学単位へ

プリント版の雑誌は、研究室や部局の予算による個々のタイトルの選択・購入という形式をとっている。これに対して電子ジャーナルは、出版社の方針でタイトル単位の提供から全タイトルや分野別ごとの一括提供に移りつつあり、利用方法もユーザー ID やパスワードの入力から、IP アドレスによるキャンパスレベルないし全学レベルを対象としている。キャンパスや大学を単位とする電子ジャーナルのサイト利用ができるようになったので重複して購読しているプリント版雑誌の購読を1部に減らし、その経費を電子ジャーナルの導入に振り向けようとする大学が増えつつある。しかし、電子ジャーナルの出版社はプリント版雑誌の購読が減らないように電子ジャーナルの購読価格の設定をプリ

ント版購読誌の契約額に基づいて行っており、限られた図書予算を効率良く執行しようとする大学側とプリント版雑誌からの売上を維持しようとする出版社とが電子ジャーナルの購読価格を巡り、激しく攻めぎあっている状況である。

(3) 所蔵からアクセスへ

プリント版の雑誌は、一度購入すると製本や書架等の保存に要する経費を除いて利用経費はほとんどかからない。このため、教育研究に必要なプリント版雑誌のタイトルを図書館・室で収集し、保存、利用することが行われてきた。電子ジャーナルの利用は出版社や仲介業者の電子ジャーナルサーバーに蓄積されている電子情報にインターネットを介してアクセスすることになる。プリント版で出されていた雑誌の電子ジャーナル化が進むと学術情報の利用は所蔵している資料からインターネット上にある電子情報へのアクセスに変わっていく。これは、所蔵資料を中心にサービスしていた図書館に対して電子情報へのアクセス・案内機能の充実・強化を迫っているのである。

5 問題点

電子ジャーナルにはプリント版とは比較にならない大きなメリットがあるが、問題点も残っている。

(1) バックナンバーの利用

電子ジャーナルの利用形態は、プリント版の雑誌と違って印刷物の利用ではなく、電子情報へのアクセスである。電子ジャーナルの契約を中止するとその時点で最新号のみならず、バックナンバーの利用もできなくなってしまう。電子ジャーナルの契約を中止した場合でもそのバックナンバーの利用を保証しているのは、FirstSearch ECO や HighWire Press 等の一部の仲介業者である。また、現在出版社が提供している電子ジャーナルの多くは、1990年代後半以降に出版されたものである。大手の出版社では、バックナンバーを遡って電子化する計画を持っているが、全てではないし、電子ジャーナルのバックナンバーの利用に当たっては別の料金を要求する動きがある。電子ジャーナルは巨大データベースであり、各出版社が将来にわたってその維持と利用を保証するとは考えにくい。電子ジャーナルのアーカイブを誰が維持・管理するかは大きな問題である。

(2) 文献複写と電子ジャーナル

プリント版の雑誌と同じように個人の調査・研究のため電子ジャーナルの1論文の全文をプリントアウトすることは認められている。ただし、それができるのは電子ジャーナルを契約している大学の教職員・学生や図書館の来館利用者のみである。学外者の利用はできない。また、図書館間の文献複写(ILL)に電子ジャーナルを利用する場合、ほとんどの出版社は、電子ジャーナルの論文のプリントアウトを他機関に送付することは認めているが、電子ファイルの送付そのものは禁止している。電子ジャーナルをILLに使用する場合にその件数についての報告を求めている出版社もある。電子ジャーナルの導入によって大学図書館間のILLの件数が減っているという報告もあるので電子ジャーナルの導入がプリント版購読誌の文献複写及びILLに大きな影響を与えていることは間違いがない。

(以下次号に続く)

(かとう・しんや 附属図書館情報管理課課長補佐)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [国内図書館関係日誌]

13. 7. 6. 第49回国公立大学図書館協力委員会（於：京都大学）
出席者：伊藤館長、吉田事務部長
13. 7. 9. 電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、小花情報システム課長
13. 7. 27. 平成13年度東海地区大学図書館協議会総会・研究集会（於：三重大学）
出席者：伊藤館長、吉田事務部長、藤森情報管理課長、加藤情報管理課長補佐
13. 8. 2~3 電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会（西地区）（於：名古屋大学）
講師：伊藤館長、小花情報システム課長 参加者：52名
13. 8. 7. 電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、小花情報システム課長
13. 9. 3. 電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、小花情報システム課長
13. 10. 4~5. 平成13年度国立7大学附属図書館部課長会議・協議会（於：北海道大学）
出席者：伊藤館長、吉田事務部長、玉木情報サービス課長

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [学内動向] < 13. 7. 6 ~ 13. 10. 5 >

会議

- ・ 第13-2回電子図書館推進委員会<7.19>
- ・ 第13-2回蔵書整備委員会<7.19>
- ・ 第13-2回和漢古典籍整理専門委員会<7.25>
- ・ 第13-1回教職教育研究図書コーナー小委員会<7.25>
- ・ 第13-3回学術情報事務会議<7.31>
- ・ 第13-3回附属図書館商議員会（持ち回り）<8.3>
 - ・ 名古屋大学の総長補佐体制に関する提言（案）について
- ・ 第13-4回附属図書館商議員会<9.7>
 - ・ 附属図書館研究開発室の教官人事について
 - ・ 名古屋大学附属図書館利用規程の一部改正について
 - ・ 名古屋大学附属図書館中央図書館利用細則の一部改正について
 - ・ 平成12年度附属図書館図書費決算について
 - ・ 平成12年度附属図書館運営費決算について
 - ・ 平成13年度附属図書館図書費実行予算について
 - ・ 平成13年度附属図書館運営費実行予算について
 - ・ 蔵書整備アドバイザーについて
 - ・ 附属図書館中央図書館コーナー小委員会委員について
- ・ 第13-4回学術情報事務会議<9.27>
- ・ 第13-3回電子図書館推進委員会<10.1>
- ・ 第13-3回蔵書整備委員会<10.1>

シンポジウム

- ・「江戸から明治の自然科学を拓いた人」：伊藤圭介没後100年記念シンポジウム<9.16>
(於：名古屋市博物館) 参加者：242名 主催：名古屋大学附属図書館、名古屋市博物館
協賛(展覧会): 「伊藤圭介と尾張本草学」(於：名古屋市博物館)

研修・講習会等への参加

- ・電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会(於：名古屋大学) <8.2-3>
参加者：澄川千賀子(情報システム課)
- ・平成13年度図書館職員著作権実務講習会(於：神戸大学) <8.29-31>
参加者：澤口由好(法) 今枝文子(経) 安井裕美子(工) 岡美江(国際開発)
- ・Librarianのためのレクシスネクシス講座(於：中央大学) <8.30-31>
参加者：森由香(法)
- ・新CAT/ILLシステム説明会・学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会(於：名古屋大学) <9.7>
参加者：140名
- ・平成13年度漢籍担当職員講習会(於：京都大学人文科学研究所) <10.1-5>
参加者：岡田智行(文)
- ・平成13年度目録システム(地域)講習会(図書コース)(於：名古屋大学)
<10.3-5>参加者：小林恵子(情報サービス課) 峯岸ななえ(情報システム課) 白神由美子(同)
岡美江(国際開発)

人物往来

<ご多幸を祈ります> 退職された人

町田早苗(情報管理課会計掛) 7.31

樋口由紀恵(医分館保健学情報資料室) <8.31>

<はじめまして> 新しく採用された人

花田明美(医分館保健学情報資料室) <9.1>

<これからもよろしく> 配置換になった人

前川宏司(情報管理課会計掛) <10.1> (経理課出納掛から)

規程改正

- ・名古屋大学附属図書館利用規程(13.4.1改正)
- ・名古屋大学附属図書館中央図書館利用細則(13.9.7改正)

部局動向

- ・国際開発研究科資料室夜間開室(火曜・木曜の17:00-20:00)の試行実施(13.9.4から14.2月まで)

.....
編集委員会：玉木茂(委員長) 加藤信哉(中) 飛田美穂(中) 小林祐二(中) 加納俊彦(経)
久納優希(文) 大嶋寛子(医) 渡辺暢子(医保健)